

佐野文夫 （おの） 翻譯家、社會運動家。明治二十五年四月十八日群馬縣  
前橋生れ、昭和六年二月一日歿（八七—一九三二）。筆名城田皓一、山口  
左門。第一高等學校を経て東京帝國大學文科大學獨文科中退。滿鐵圖書  
館、外務省情報部（騰記）勤務と酒氣退職。大正十一年雜誌『無産  
階級』發刊に關與。十二年政治研究會創設に參與し綱領を起草。この  
間日本共産黨に入黨、十五年中央委員長の選ばれる翌年七月まで在任。  
その後ソ聯に渡り、歸國後の昭和二年、二・二六事件（鯨骨一齊被擧）  
に入獄、五年保釋出所後程なく病死。

譯書に、ゲルハルト・ハウプトマン著『希臘の春』（山口左門名、大  
正十三年二月十一日春秋社）。のち城田皓一名、昭和四年七月二十五日  
岩波書店「岩波文庫」）、ローザ・ルクセンブルグ著『經濟學入門』  
（大正十五年二月八日叢文閣）。のち、昭和八年二月十日岩波書店「岩  
波文庫」）、ブリン（エマ・ブハーリン）著『轉形期經濟學』（昭  
和三年九月十二日同人社書店）、エンゲルス著『オイエルバッツハ論』  
（昭和四年七月二十日岩波書店「岩波文庫」）、レーニン著『唯物論  
と經驗批判論』全三冊（上巻・昭和五年七月二十日、中巻・十（一）日、  
十五日、下巻・十六年五月五日岩波書店「岩波文庫」、全一冊・七年二  
月十五日岩波書店）、フオイエルバッツハ著『ハーゲル哲學の批判地  
篇』（昭和八年十一月五日岩波書店「岩波文庫」）等。